熊日1961.05.17

市販魚にも水俣病？

近く毛髪検査　保健所では否定

熊大で水俣病と診断されたネコ（昨報）は漁師のかいネコではなく、一般家庭でかわれていたものとわかり、県衛生部では一部市販の魚にも水俣病の危険があるのではないかと、万一を心配してネコをかっていた水俣市百間の浜州義高さん（水俣市役所農政課勤務）の家族九人の毛髪検査を近く実施する。

水俣病の発生は〝ネコから人間〟の順序で、その家のネコが発病してから人間が発病する例が多いが、これまでの発病はほとんど漁師に限られていた。こんどは一般家庭のネコが発病したというので県衛生部でも事態を心配しているもの。

浜州さん方では、このネコに行商人が売りに来た魚のワタを食わせていたといわれる。ただ浜州さん方から約三百㍍離れたところに熊大医学部が実験用に使う水俣湾でとれた有毒魚のホシ場があり、これを食ったことも考えられるが、そうでなければ危険な魚が販売されている心配もあるというわけ。毛髪検査は毛髪に含まれる水銀の量を調べ普通人と比較して水俣病の危険度が測定される。

いっぽう水俣保健所でも十六日現地調査を行ない、ネコが市販の魚貝類を食べたかどうかについてつぎのような調査結果を発表した。

市販の魚貝類を食べたネコが発病するとしたら同地区に限らず他の地区でも発病しなければならず、市販の魚貝類を食べて発病したと断定できる証拠は薄い。ネコはいままでの実験結果からひと晩に一十以上も歩きまわるためとんどの発病ネコはもっともドベの多い百間排水口付近から馬刀潟、明神地区を歩いたとみられ、なぎさに打ちあげられた魚貝類を食べたかも知れず、またことし四月から研究用として湾内の魚貝類を馬刀潟付近に干してあったのを盗み食いしたことも考えられる。漁民以外の家で飼われたネコの発病はこんどがはじめてではないが、浄化装置完成以前から湾内に沈んでいるドベは除外されたわけではなく魚貝類の毒性は残っておりこんどのネコの発病はこれを実証する事例の一つである。